

区 分	専門科目-専門基礎科目	担当教員	竹中 健			
授業科目	社会学 A					
英 訳	Sociology A					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 テキストおよび映像を用いて、社会学の初歩的な用語や概念を学ぶ。						
【授業の目的】 1 現代社会のさまざまな問題について、考察を深める 2 社会学的なモノの見方を学ぶ						
【到達目標】 各回で扱う社会学の基礎的な用語、概念、考え方を理解することを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回、テキストの各章をあらかじめ読んでおくこと。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 社会学のあゆみ 第 3回 社会調査法 第 4回 家族 第 5回 教育 第 6回 政治・社会運動 第 7回 メディアの現在 第 8回 地域社会とコミュニティ 第 9回 労働 第10回 社会階層 第11回 福祉と社会保障 第12回 グローバリゼーション 第13回 少子高齢社会 第14回 ジェンダー・セクシュアリティ 第15回 まとめ						
【教科書】 櫻井・西浦・飯田編著 『アンビシャス社会学』（北海道大学出版会）						
【参考書】 田村公江・細谷実編著 『大学生と語る性—インタビューから浮かび上がる現代セクシュアリティ』（晃洋書房）						
【成績評価基準】 講義内で実施するミニテストの結果（100%）を総合的に判断する						
【メッセージ】 毎回の講義までに、その日に扱う章のテキストを熟読しておくこと						

区 分	専門科目-専門基礎科目	担当教員	竹中 健			
授業科目	社会学 B					
英 訳	Sociology B					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 テキストや映像を用いて、さまざまな社会現象について自分の頭で考えるトレーニングを行う。 さらに、各事象について社会学の思考様式に基づいた分析の手法を学ぶ。						
【授業の目的】 1 現代社会のさまざまな問題群について、考察を深める 2 社会学的なモノの見方を学ぶ						
【到達目標】 各回で扱う社会学の基礎的な用語、概念、考え方を理解することを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回、テキストの各章をあらかじめ読んでおくこと。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 規範 第 3回 価値自由 第 4回 映画を見て考える社会学1 第 5回 トランプで学ぶ社会階層 第 6回 セクシュアル・マイノリティを考える 第 7回 マス・メディア 第 8回 映画を見て考える社会学2 第 9回 逸脱と統制 第 10回 自殺を考える 第 11回 精神疾患と社会 第 12回 アノミー論 第 13回 レーベリング論 第 14回 社会運動とは何か 第 15回 まとめ						
【教科書】 櫻井・西浦・飯田編著 『アンビシャス社会学』(北海道大学出版会)						
【参考書】 田村公江・細谷実編著 『大学生と語る性—インタビューから浮かび上がる現代セクシュアリティ』 (晃洋書房)						
【成績評価基準】 講義内で実施するミニテストの結果(100%)を総合的に判断する						
【メッセージ】 毎回の講義までに、その日に扱う章のテキストを熟読しておくこと						

区 分	専門科目 — 専門基礎科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会学理論 A					
英 訳	Sociological Theory A					
配当年次	2 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 社会学の誕生以来、蓄積されてきた社会学理論について、その基礎概念を学ぶ。授業は講義形式で行う。						
【授業の目的】 この授業によって社会学理論を学んだ受講生が、基本的な社会学の視点や発想を身につけ、社会学の面白さに触れることを目的としています。						
【到達目標】 社会学理論の中から行為論、集団論、近代化論などの基本概念について学習し、応用可能な知識を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノート・配付プリント、紹介した参考書等を確認し、授業内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス～社会学理論の視点 第 2 回 秩序問題と三者関係 第 3 回 集団について 第 4 回 日常世界の構成 第 5 回 機能分化する社会 第 6 回 行為について 第 7 回 近代人の登場 第 8 回 近代社会とアノミー 第 9 回 近代社会と時空間の抽象化 第 10 回 近代社会における合理化の概念 第 11 回 リスクと社会 第 12 回 消費社会論 第 13 回 「私化」の進行 第 14 回 現代社会と再帰性 第 15 回 まとめ～社会学と理論						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書】 授業中に適宜、紹介する、						
【成績評価基準】 期末テスト(70%程度)、授業中の小レポート(30%程度)などをもとに、授業内容の理解度および応用力という観点から評価する。						
【メッセージ】 社会学理論は、たんに暗記するだけではなく、自分自身で考え、理解し、使ってみること(さらに使いながら修正すること)で、その面白さや奥深さに気づくことができる。日頃から授業で学んだ内容について誰かと論じ合うことが望ましい。						

区 分	専門科目 ー専門基礎科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会学理論 B					
英 訳	Sociological Theory B					
配当年次	2 年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 社会学の誕生以来、蓄積されてきた社会学理論について、その基礎概念を学ぶ。授業は講義形式で行う。						
【授業の目的】 この授業によって社会学理論を学んだ受講生が、基本的な社会学の視点や発想を身につけ、社会学の面白さに触れることを目的としています。						
【到達目標】 社会学理論の中から社会システム論の基本概念について学習し、応用可能な知識を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノート・配付プリント、紹介した参考書等を確認し、授業内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス～社会学理論の意義 第 2 回 社会的ネットワークとソーシャルキャピタル 第 3 回 社会・集団の類型 第 4 回 社会システム論の視点 (1) 第 5 回 社会システム論の視点 (2) 第 6 回 アイデンティティとモラトリアム 第 7 回 産業社会における社会意識 第 8 回 文化産業論の視点 第 9 回 社会問題の捉え方 (1) 第 10 回 社会問題の捉え方 (2) 第 11 回 日本社会の分析理論 (1) 第 12 回 日本社会の分析理論 (2) 第 13 回 日本社会の分析理論 (3) 第 14 回 現代社会と社会学理論 第 15 回 まとめ～社会学理論を学ぶこと						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書】 授業中に適宜、紹介する、						
【成績評価基準】 期末テスト(70%程度)、授業中の小レポート(30%程度)などをもとに、授業内容の理解度および応用力という観点から評価する。						
【メッセージ】 社会学理論は、たんに暗記するだけではなく、自分自身で考え、理解し、使ってみること(さらに使いながら修正すること)で、その面白さや奥深さに気づくことができる。日頃から授業で学んだ内容について誰かと論じ合うことが望ましい。						

区 分	専門科目－専門基礎科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	社会調査論A					
英 訳	Social Research Methods A					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 社会調査、取材の意義と諸類型に関する基本的事項を講義する。						
【授業の目的】 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態を一連の作業によって把握する社会調査と取材の基本的事項について、概要と歴史、方法とともに発想・図解法などの思考法の概要を講義する。						
【到達目標】 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態は社会調査・取材という一連の作業によって把握できる。社会調査・取材の概要と歴史、発想・図解法などの思考法と技法の概要について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1 回：社会調査とは 第 2 回：社会調査の目的 第 3 回：社会調査の手法①統計調査と事例調査 第 4 回：社会調査の手法②質的調査と量的調査 第 5 回：社会調査の手法③調査票調査とフィールド調査 第 6 回：社会調査の歴史 第 7 回：調査倫理 第 8 回：社会調査の体系 第 9 回：調査課題の設定と問題意識 第 10 回：仮説と結論 第 11 回：発想法 第 12 回：作図法 第 13 回：調査の企画と設計 第 14 回：資料やデータの収集 第 15 回：まとめ						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 各回のレポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 「調査」だけでなく「取材」などの同様の手法についても方法論を修得してもらいたい。 社会調査士資格取得の標準カリキュラム「【A】社会調査の基本的事項に関する科目」の認定科目(必修)である。						

区 分	専門科目－専門基礎科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	社会調査論B					
英 訳	Social Research Methods B					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 社会調査や取材によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していくための、具体的な調査・取材設計と実施方法について講義する。						
【授業の目的】 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態を一連の作業によって把握する社会調査・取材の具体的な方法と実際について講義する。						
【到達目標】 社会現象や社会的存在を理解・把握し問題・課題を解決するための手法としての社会調査・取材の具体的な設計や実施方法を修得する。						
【準備学習(予習・復習)】 配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回：社会調査の体系と方法 第 2回：社会調査の企画 第 3回：社会調査の設計 第 4回：文献・資料調査 第 5回：観察調査と質問調査 第 6回：調査票 第 7回：個人情報と調査倫理 第 8回：実査 第 9回：データの入力と集計・分析 第10回：調査結果のとりまとめと公表 第11回：社会調査と携帯端末 第12回：調査事例①世論調査・意識調査・意向調査 第13回：調査事例②地域調査 第14回：調査事例③階層調査 第15回：まとめ						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 「調査」だけでなく「取材」などの同様の手法についても方法論を修得してもらいたい。 社会調査士資格取得の標準カリキュラム「【B】 調査設計と実施方法に関する科目」の認定科目(必修)である。						

区 分	専門科目-専門基礎科目	担当教員	竹中 健			
授業科目	ボランティアとNPOの社会学					
英 訳	Sociology of Volunteer and NPO					
配当年次	1年次 通年	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 テキストを用いて、まず現代日本社会におけるボランティア組織の位置づけを理解する。次に、各自が任意のボランティア組織に主体的にアプローチする。そこで30時間のボランティア活動を実際に経験をし、その体験をクラスで発表する。理論と経験の二つの方向から現代社会におけるボランティアの意味を考える。						
【授業の目的】 1 現代日本社会におけるボランティアの概念と実態の乖離を理解する 2 ボランティア体験を通して、働くことの楽しさやその意味にふれる						
【到達目標】 1 ボランティア動員の現実とその問題点を理解する 2 30時間のボランティアを経験する 3 ボランティア体験をクラスのなかで発表する						
【準備学習(予習・復習)】 (第2回～第6回まで) 毎回、授業の前までにテキストの各章をあらかじめ読んでおくこと。 (第7回～第14回まで) ボランティア組織との接触状況を毎回報告できるよう、報告書をまとめておくこと (第27回～第29回まで) プレゼンテーションのための資料を準備し、最低3回以上コメントを受け修正すること						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 『ボランティアへのまなざし』第1章 ボランティア行為者像を知る 第 3回 『ボランティアへのまなざし』第2章 ボランティア組織の展開可能性を考える 第 4回 『ボランティアへのまなざし』第3章 ボランティア動員を考える 第 5回 『ボランティアへのまなざし』第4章 ボランティア組織が自立するための条件を考える 第 6回 『ボランティアへのまなざし』第5章 日本におけるボランティア組織の未来を予測する 第 7回 フリースクールのボランティア (現場で活躍する外部講師の話聞く) 第 8回 福祉施設におけるボランティア (現場で活躍する外部講師の話聞く) 第 9回 ボランティア実習準備 1 選定準備 第 10回 ボランティア実習準備 2 アポイントメントのとりかた 第 11回 ボランティア実習準備 3 スケジュールの立てかた 第 12回 ボランティア実習準備 4 研修 A 第 13回 ボランティア実習準備 5 研修 B 第 14回 最終ボランティア計画書の作成と提出 第 15回 日程最終確認表の作成と提出 第 16回～第 27回 各自でボランティアを体験する 第 28回～第 30回 発表会						
【教科書】 『ボランティアへのまなざし』竹中健 晃洋書房 2013年						
【参考書】 講義のなかで適宜紹介する						
【成績評価基準】 ① 講義内で実施するミニテストの結果 (20%) + ② ボランティア実習計画の作成と実行 (50%) + ③ 発表会でのプレゼンテーション (自己の発表内容と他者へのコメント内容などを総合的に判断する) (30%)						
【メッセージ】 毎回の講義までに、その日に扱う章のテキストを熟読しておくこと。ボランティアを楽しみましょう。						

区 分	専門科目－専門基礎科目	担当教員	沢田善太郎 他			
授業科目	フィールドワーク体験					
英 訳	The Experience of Field Work					
配当年次	1 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 夏休みの集中講義。現社の教員が日頃取り組んでいるフィールドワークの領域を実地に体験してもらう。						
【授業の目的】 日程は日程の関係から8月19日と大幅に飛んで8月29日～9月2日、まで、鯉城会館（広島市中区大手町 1-5-3）を拠点に実施。						
【到達目標】 興味のあるフィールドで自分の問題意識を活かす方法を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 フィールドワークで知ったことを自分なりに整理する。						
【授業計画】						
		授業テーマ	訪問・調査先	指導教員		
第 1回	8月19日(金)	アニメの祭典	広島アニメーションフェスティバル	谷口		
第 2回	8月29日(火)	日本(広島)に住む外国人	外国人が経営するお店を訪問する	崔		
第 3回	8月30日(水)	ボランティア活動の体験	ボランティア団体を訪問する	竹中		
	8月31日(木)	お休み				
第 4回	9月 1日(木)	企業経営のしくみ	企業の現場を見学する	竹元		
第 5回	9月 2日(金)	福祉社会を目指して	広島の福祉施設を見学する	藤本		
授業開始は10時40分、会場（鯉城会館）には10時には教員が来ています。						
【教科書】 特にない。						
【参考書】 毎日の指導教員が指示するだろう。						
【成績評価基準】 ・毎回の授業でのフィールドワークへの熱意（お会いした人に対して、礼儀正しく、しかも熱心に質問ができるかなどが評価の目安になるだろう） ・全部の授業が終わった後、自分がいちばん興味を持ったことをレポートにしよう。 ・これらを総合して、成績評価をする。						
【メッセージ】						

区 分	専門科目 — 専門基礎科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	海外研修					
英 訳	Study Abroad					
配当年次	2年次	通年	必選別	選択	単位数	4単位
【授業の概要】 台湾の歴史・社会・文化などについて事前学習をし、台湾で学生交流や異文化体験をする。下記の授業計画に基づき実施する。						
【授業の目的】 海外研修を通じて、台湾についての理解を深めるとともに、中国語によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。						
【到達目標】 台湾の歴史・社会・文化などについて理解するとともに、台湾での海外研修を通じて、異文化の人との交流の大切さや、異文化交流をするうえで重要なことを感じ取る。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配付プリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 台湾の自然環境① 第 3回 台湾の自然環境② 第 4回 台湾の歴史① 第 5回 台湾の歴史② 第 6回 日本統治時代① 第 7回 日本統治時代② 第 8回 台湾原住民 第 9回 台湾の食文化 第10回 中国語学習① 第11回 中国語学習② 第12回 中国語学習③ 第13回 中国語学習④ 第14回 海外研修準備① 第15回 海外研修準備②						
【教科書】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書】 講義中、適宜紹介する。						
【成績評価基準】 事前学習への取り組み (30%)、台湾での海外研修への取り組み (40%)、帰国後のレポート提出 (30%) で評価する。						
【メッセージ】 事前学習および台湾での研修すべてに参加すること。台湾で約10日間の研修を予定しており、研修内容と費用の詳細については、第1回目のガイダンスのときに説明する。費用は15万円程度になるであろう。						

区 分			担当教員			
授業科目						
英 訳						
配当年次	年次	期	必選別		単位数	単位
【授業の概要】						
【授業の目的】						
【到達目標】						
【準備学習(予習・復習)】						
【授業計画】 第 1 回 台湾研修① 第 2 回 台湾研修② 第 3 回 台湾研修③ 第 4 回 台湾研修④ 第 5 回 台湾研修⑤ 第 6 回 台湾研修⑥ 第 7 回 台湾研修⑦ 第 8 回 台湾研修⑧ 第 9 回 台湾研修⑨ 第 10 回 台湾研修⑩ 第 11 回 台湾研修⑪ 第 12 回 海外研修を終えて 第 13 回 レポート作成 第 14 回 レポート作成 第 15 回 レポート作成						
【教科書】						
【参考書】						
【成績評価基準】						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－専門基礎科目	担当教員	竹元雅彦・藤本風明		
授業科目	資格A				
英 訳	Challenging License A				
配当年次	1～4年次	必選別	選択	単位数	2単位
<p>【授業の概要】 社会に出てから役に立つ様々な資格について、概要や取得方法、試験内容、試験対策について幅広く講義や実習などを行う。</p>					
<p>【授業の目的】 大学卒業後に就く仕事の中には、資格の取得が要件として求められるものもあれば、資格を有していることが就職活動の際に大きなアピール点となるものもある。現代社会学科では資格の取得を奨励しており、この科目は資格の取得に向けた支援を行うことが目的としている。</p>					
<p>【到達目標】 現代社会学科が指定した資格の取得を到達目標とする。</p>					
<p>【準備学習(予習・復習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の概要や試験内容などについてよく理解しておくとともに、不明点は質問すること ・実習などについては、準備を欠かさず、次の実習のために反省点などをまとめておくこと 					
<p>【授業計画】 この科目では、次の資格の取得を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修 <p>その他の資格も単位認定することがある。</p>					
<p>【教科書】 資格ごとに随時指定する。</p>					
<p>【参考書】 資格ごとに随時指定する。</p>					
<p>【成績評価基準】 資格の取得の後、委員会等に諮り単位認定を行う。</p>					
<p>【メッセージ】 積極的に資格の取得を目指してほしい。</p>					